

会 議 録

1 会議名

令和4年度第10回吉川区地域協議会

2 会長挨拶

3 議題（公開・非公開の別）

- ・報告事項（公開）
 - （1）会長報告
 - （2）委員報告
 - （3）事務局報告
- ・協議事項（公開）
 - （1）自主的審議事項
 - （2）その他
- ・総合事務所からの諸連絡について（公開）
- ・その他（公開）

4 開催日時

令和4年11月24日（木）午後5時30分から午後7時24分まで

5 開催場所

吉川コミュニティプラザ 3階 大会議室

6 傍聴人の数

1

7 非公開の理由

なし

8 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：五十嵐豊、江村奈緒美、薄波和夫、大滝健彦、片桐利男、佐藤 均、関澤義男、高野幸夫、中村正三、橋爪正平、平山浩子、山岸晃一
- ・事務局：吉川区総合事務所
風間所長、渡邊市民生活・福祉グループ長（教育・文化グループ長兼務）、平原総務・地域振興グループ班長、霜鳥総務・地域振興グループ主任、玉井柿崎区総合事務所産業グループ班長、交通政策課木南副課長、横木主事

9 発言の内容（要旨）

【平原班長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 委員 12 人の出席を報告
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 会議録の確認：大滝委員

【山岸会長】

- ・ 挨拶

【平原班長】

- ・ 議長の選出について、上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 1 項の規定により山岸会長から議長を務めていただく。

【山岸会長】

- ・ 次第の 3 報告事項(1)会長報告であるが、11 月 19 日の土曜日に、大潟区の体操施設「ジムリーナ」で午後 2 時から行われた「頸北地区地域協議会委員研修会」について報告する。
- ・ 講師として、福島大学人間発達文化学類の牧田実教授が来られて講演を行った。この方は 2013 年 4 月から 2014 年 3 月まで上越市地域協議会検証会議の委員を務められた方で、以前皆さんに協議会のバイブルですよとお配りした資料はこの検証委員の方々で作られたもの。機会があれば確認をいただければと思う。
- ・ 講演の内容は上越市の地域自治区と地域協議会で、地域自治区とは何か、上越市の地域自治区制度の比較として長野県飯田市の地域自治区制度を挙げられた。また、地域自治における参加と協働、最後に地域自治を一步進めるためにということで講演いただいた。
- ・ 上越市の地域協議会がどんな立ち位置にあるのか、行政とどうかかわっていくのか、協働していくのかというお話があった。今後の協議会のあり方としては、住民主体的な活動は地方政府に関する監視、提案機能を持つものであるので、我々は我々の立場で、住民の代表として地域の意見を行政に伝えて、市は良い方向に進めていただく。地域のことは地域で考えて意見するという大事な立ち位置。市議会とは違って、区の住民と直結した行政とのかかわりという役割があるので、皆さんも以前お配りした資料をもう一度見ていただき、我々の役割を再度認識していただいて、あと任期は 1 年しかないが皆さんとともに頑張りたいと思っている。

- ・次に、佐藤副会長から 10 月 28 日金曜日に行った「道の駅関係者と地域協議会委員との意見交換会」について報告をお願いします。

【佐藤副会長】

- ・当日は道の駅関係者 4 社の皆さんと当地域協議会委員 9 名と行政の関係者が集まって行われた。皆さんの話を聞いた中では、活性化に向けて進めていきたいという意見が多かったが、個々の企業の経営方針では、財政力に限りがあるのでどうしたらよいかというジレンマもあるように感じられた。私としては地域全体として、何をどうすればよいかという、今日も視察で見てきたが、意見交換会で課題、問題点が見えてきたのかなと思っている。
- ・将来像として道の駅をどうするのかという意見を出し合って、リーダーをしっかりと置いて、将来像に向かって進めていくということが大事だと思っている。詳しくは会議録を読んでもらいたいと思う。

【山岸会長】

- ・次に、薄波副会長から 11 月 17 日木曜日に行われた「道の駅活性化セミナー」と「(仮称)道の駅よしかわ杜氏の郷活性化検討会」について報告をお願いします。

【薄波副会長】

- ・2 点報告させていただく。まずは道の駅活性化セミナーということで、コンサルティングをされている方 2 名にお出でいただきお話を伺った。1 名は株式会社テレコムベイシスの石川様。もう一人は一木様のお話であった。
- ・最初の方は道の駅の概要のお話で、道の駅は日本に 1,200 程度あり、最近では大型の道の駅が増えているが、バスが数台しか止まらない道の駅でも賑わっているところがある。まちの駅という所もあるが、まちの駅と道の駅との違いというのも話されておられた。
- ・もう一つは、道の駅を成功させるにはというお話だったが、長くなるので資料をご覧ください。また一木先生のお話では、道の駅の顧客志向の考え方を持とうというお話であった。道の駅の成功というのは仕組みを考える、志向を考えること、この 2 つが大事だという話であった。以上が前段。
- ・その後、「よしかわ道の駅活性化検討委員会」の第 1 回目が行われた。この会議は以前から、柿崎区総合事務所、吉川区総合事務所、道の駅関係者で行われていたが、そこから少し広げ、地域協議会と地域の方を含めて道の駅を検討していこうという会

として開かれた。今回は関係者の皆さんが集まって顔合わせを行い、今後、活性化を検討していこうということで終わったところ。以上です。

【山岸会長】

- ・当協議会としては、2つの地域を活性化するというので、道の駅のさらなる活性化、尾神岳の活性化ということで委員間では統一されている。今回は道の駅についてどうやったら賑やかになるのか。区の玄関口として、道の駅が活性化することによって区が元気になるという方向へ導きたいと思っている。今日も後ほど視察について皆さんからご意見をいただきたいと思っている。よろしくお願いします。
- ・続いて委員報告はあるか。

【関澤委員】

- ・頸北地区の委員研修会について補足説明をさせていただきたい。説明の中で私が感じたことだが、講演の質疑の中で、中川市長は理想ばかりを言っていて具体的な計画がないというご意見があった。副市長の4人制など、頭の中では描いているのだけでも具体化した計画性がないような話をしている。市長に不安な気持ちだという意見があった。もう少し地域協議会制度について勉強してもらったり、市議会の皆さんも地域協議会制度の基本的考え方を、じっくりと議論して勉強していくべきだなと感じた。私はそこを重要視したいと思う。若い市長であるので、はっきりこうするということを言ってもらわないと我々もついていけないという気持ちになる。皆さんはどう考えられるか。以上です。

【山岸会長】

- ・確かにそのような意見もあったが、教授も前もっていただいた資料の中での話、という発言もあったので、関澤委員の感想と考えは分かったが、これからの動きを見ながら、修正するものは修正していただかなければならないということは私も考えているところ。他に委員報告はないか。なければ事務局報告をお願いします。

【平原班長】

- ・事務局報告は3件。1点目、上越市吉川ゆっつりの郷条例の一部改正について。2点目が新市建設計画の変更について。3点目が予約型コミュニティバスについて。1点目の上越市吉川ゆっつりの郷条例の一部改正について説明する。

【玉井班長】

- ・資料1について説明。

【山岸会長】

- ・これについて、意見、質問はあるか。

【江村委員】

- ・コロナ禍であり酵素風呂が使えなくなるというのは仕方がないと思う。酵素風呂は珍しく、なかなか他にないものであり、友人も富山まで行ったことがある。私も珍しいので1回か2回利用したことがある。芯から温まるし、ウリだったと思う。地元のおじいちゃんおばあちゃん、両親も施設に行つて近所の方や吉川の人と話すことが楽しくてコロナ禍の前はよく通つていた。上越市にこういうお風呂があるんだというウリの一つになっていたのかなと思うと、機械設備の補修と更新に多額の費用が必要とあるが、コロナ禍が落ち着いてその時に修理するときどれくらいお金がかかるのか、また今まで通りどれくらいの方が利用するのかわからないけれど、更に発信して利用してもらおうとしたらどれくらいの方が利用してもらえるのか天秤にかけてしっかりと考えていただいたのか。ただお金がかかるから止めましょうというような説明ではちょっと納得できないかなと思っている。特に吉川では、人口が著しく減つて、色々な施設が閉まつて、どんどん無くなつていきそうな勢い。私が危惧しているのは、体育館やグラウンド、野球場、テニスコートが利用者が少ないからと言って止める方向になつていないか。柿崎に行けば運動できるところがある、柿崎にも頸城にもサッカー場がある、隣なのだからそちらを利用できると言われるけれど、私たちの地域には何を残してくれるのだろう。市は吉川にはこれがあるというのをしっかりと、一つか二つは残してほしいというのが私にはあつて、酵素風呂は吉川だけにしかないから残そうよという方向に持っていつてくれないかなと思う。例えば酒まつりは吉川でもやっていた。その後で高田で酒まつりをやり始めて、何か寂しいというか悔しいというか残念というか。もちろん高田でやることは大事だと思うのだけれど、もともとあつた吉川の祭りを盛り上げようとか、高田の祭りをこっちに持つてこようというのは姿勢として全然ないのではないのかという思いがあつて、お金、予算のことは分からないのだけれども、市全体を見て、酒だったら吉川だね、じゃあ吉川に集まろうという気持ちが行政でも持つていてもらえれば良いのにとつた時があつて、この機会に話させてもらった。

【玉井班長】

- ・具体的な金額は持ち合わせていないが、1年間に使用する酵素の原材料だけで200万

円かかっている。利用料は一人 1,600 円で風呂を使っただけだが、最大で 5 人までの利用となっている。計算すると 240 万円の収入しかない。運営を続けていても困難と判断した。コロナ禍が落ち着いたとしても、このほかに人件費、光熱水費などの経費がかかり、運営は難しいということで今回廃止という説明をさせていただいた。

【江村委員】

- ・(経費がかかり運営が難しいことは) 分かった。施設は月曜が休みであるが、それ以外の営業日には利用できるよう用意しているということか。知人で起業しようとしている人がいるが、いつでも来て良いとすると、酵素材等が無駄になることはあるが、金土日だけやるとか工夫してやっつけよう。今までどおりにこれだけかかるから無理です、ではなく、限定的にして、工夫して、どうやったら少ない費用でできるかということを考えて、行政も考えないといけないと思う。本当に突き詰めて考えて止めるしかないというのであれば納得するが、現状では、申し訳ないが納得できない。突き詰めたができない、というのであれば納得するが、本当に突き詰めたのかと言いたい。

【関澤委員】

- ・酵素風呂は、ゆったりの郷独特のもので、この辺ではほとんどないもの。修理には金がかかる。利用者がいない。ただそれだけで、利用者がいるなら料金を安くすればよいのか、それとも機械自体の調達の安い方法がないのか、何も手を考えずに、ただ利用者がいない、金がかかるというだけの理由で廃止としてよいものかと思う。もう少しやってみて、とてもできない、だめだという結論を具体的に提示してもらわないと。収支が合わない、修理には金がかかるといえば簡単なことだが、もう少し工夫してみるという中でやってみてはというのが私の意見。酵素風呂は体の芯まで温まって、ゆったりの郷ができてからの独特のお風呂なので、何としても残していきたいなと思っている。ダメということになればダメであるし、もう少し検討すべきではないかと思う。

【山岸会長】

- ・お二人とも、お金がないというところと、これまではお客がついていたということ。機材が老朽化していたというのは私も理解していたが、地元の声としてはできれば残す方向でお願いできないかということだと思う。その辺を検討する余地があると

すればもう少し揉んでいただけないかなというところ。お願いしたいと思う。

【風間所長】

- ・ご意見をいただいたが、ゆったりの郷は平成9年から営業している。先ほど概算で計算したが、一人1,600円で令和元年で利用者が514人。約80万円の収入しかなく、原材料費で200万円であるので、差額の120万円は赤字となっている。ある程度の利用がないとペイできないことになる。特に今回コロナ禍になって利用ができず、利用の廃止を決断した施設経営管理室でもその辺を十分考えての提案だと思っている。コロナ禍の後のことも考えて、今回の提案になっていることをご理解いただきたい。

【山岸会長】

- ・事情も重々承知したうえで委員の意見として地元の声としてお伝えするが、儲けがあるかないかも大事なこと。しかし、私が働いていた頃には女優の方が来て、宣伝にもなっていた。ダメを承知で、できればということをご理解いただきたい。

【風間所長】

- ・今回は12月の諮問の事前説明となる。次回の諮問に合わせて今回のご質問について説明できるようさせていただき、諮問させていただきたいと思う。

【山岸会長】

- ・よろしく願います。玉井班長御退席ください。
- ・続けて事務局願います。

【平原班長】

- ・新市建設計画の変更について説明。

【山岸会長】

- ・今の件について、ご意見、ご質問はあるか。
(意見、質問はなかった)

【木南副課長】

- ・予約型コミュニティバスについて説明

【山岸会長】

- ・今の件について、ご意見、ご質問はあるか。

【片桐委員】

- ・停留所の設定であるが、地域の方がここと言ったら設定できるのか

【木南副課長】

- ・今回、路線がなくなり、地域の皆さんの希望があったところに停留所を増やし、結果、安塚区で16、牧区で3か所増えた。また、運行している中でも、ここにも欲しいという要望があれば増やしている。

【片桐委員】

- ・これからの予定として、吉川区における取組としては、地域の新たな停留所については、いずれ皆さんから意見を聞かれるという機会があるということか。

【木南副課長】

- ・今は安塚区と牧区はモデルとして始めたところなので、全部がそのように進めることではない。色々な地域の事業があり、既に走っているバスがあるなど、協議を進めていった結果、こういった方式になった場合は、今よりバス停を増加という話になると思う。今も必要であればバス停は増やすことはできる。

【片桐委員】

- ・この実証試験をやるときには、13区でも導入したいとして進めたと思う。今の話では、他の地域はこれから考える、と聞こえる。当初の話とどう違うのか。

【木南副課長】

- ・皆様ご存じのとおり、市内では、合併前上越市、13区とそれぞれ地域の特徴があり、元々色々なバスが入っていたり、スクールバスに乗っていたり、地形によって影響を受けているところもあり、一律同じ方法というのが難しい状況である。公共交通計画で再編をすることでお話をしたが、それぞれの地域で別々に進めている状況。いずれ広げていきたいというのはあるが、全部が全部というのは難しいと思っている。例えば三和区のように振興会がドアトゥドアでやっているところもある。そういったところはそのように進めていく考えになるだろうし、住宅がバス路線に張り付いているところではそのまま良いという場合もある。予約ではなくて定時、定期の路線が良いという所もあるので、それぞれの地域で考えていきたいと思っている。モデルのシステムは始めたばかりであり、検証結果を踏まえて、合う所に広げていきたいと思っている。

【片桐委員】

- ・確認したい。コミュニティバスの実証運行を始めた。この結果についてはここに出ているが、各地域の実情に合わせて今後は検討をするということか。各地域の話を聞かないで進めて行くのか、それとも地域の方と話し合っ決めて決めるのか。

【木南副課長】

- ・公共交通計画であるが、8本の計画がある。それがもうすぐ計画の前期が終了する。後期の4年について、来年、皆さんの所に入り意見をお聞きすることになっている。ここで、他の地域でも、このシステムが良いとなれば、実証運行をして内容を変更する等より良くするよう、地域の皆さんから話を聞いたりして進める予定となっている。

【片桐委員】

- ・このように計画で決めたからこれで行く、ということではなく、地域の方をおもんばかった進め方をお願いしたい。今後ともそのような姿勢で進めていただきたい。

【木南副課長】

- ・ご理解いただき感謝する。元々地域の交通というものが、利用者が少ないということは大きい、どうしてもこれがないと困る人たちがいるということも確か。公共交通が必要なのだというニーズもわかっているが、地域ごとに違うので、皆さんの話を聞きながら進めていきたいと思っている。先ほども話したが、計画の前期では再編計画を立てたが、実際のところ3年前の話であり、状況が変わっている地域も沢山ある。その時の人口であったりニーズが変わったりしており、そのようなことも踏まえながら計画を見直しながら進めているところである。

【山岸会長】

- ・他にいかがか。

【関澤委員】

- ・安塚区と牧区の現状を見ると、安塚が1日平均利用者が7.3人、牧区が9.8人。運賃というのは長い間乗っても、短くても200円ということか。

【木南副課長】

- ・一律の料金。

【関澤委員】

- ・私が心配するのは、路線バスは補助金が出なければ経営が成り立たないと思っており、運行してみたものの経費がかかってどうにもならなくて止めてしまうということはないのか。実績を見ると通勤等でこれだけしか乗っていない。これだけでもバスが走っていたのだなと思っている。200円で経営が成り立つのかとも思っている。しかし止めてもらっては困ってしまうので、不安も感じている。

【山岸会長】

- ・感想は止めてください。

【佐藤副会長】

- ・予約型コミュニティバスというが、交通弱者という立場から見ると、ドアトゥドアの方がベストで優しいと思う。そこを考慮してこのようなシステムにしたのか。停留所にも行けない方がおり、任意の停留所を作ったとしても交通弱者の救済にはならないと思う。もう一步踏み込んでドアトゥドアのシステムができなかったのか、検討したのか教えてほしい。

【木南副課長】

- ・ドアトゥドアというとタクシーの守備範囲になる。高齢者や障害のある方に対してはタクシーの補助が出ている。また、バス停まで行けないということは大きいと思うが、公共交通としては、タクシーと同じとなってしまっはタクシー事業を圧迫することになり兼ねない。民間事業者がやっている部分は民間事業者でやって手を付けない。今回バス停を増やしているので、より近くにバス停を設置することができ、施設の目の前まで、バス停が近くなったという声を聴いている。

【山岸会長】

- ・他にないか。

【江村委員】

- ・停留所だが、新設はどのようなやり方で地域から要望を聞いたのか。また、無くなった停留所はないのか。それからオペレーターに電話予約するとのことだが、オペレーターはどのような方がどこでやっているのか。最後に、毎日利用する高校生などの毎日使う方の予約はどのようにしているのか。

【木南副課長】

- ・停留所の新設は、利用者の方に聞いて新設する。なくなった停留所はない。オペレーターは運行事業者のバスやタクシーの会社で行っている。高校生などの毎日の利用の予約であるが、残念ながらまだ高校生の予約は入っていない。一応 10 件までの予約はできることになっている。ただ 10 月から始まったばかりであるので、生活のスタイルがまだ変わっていないのではないかと考えている。今後の利用を期待している。

【江村委員】

- ・親としては、吉川から柿崎の駅までとか、高校生が自分で行ってくれると助かる。高校生がいるお宅には情報が行っているのか、親の通勤の都合で一緒に行くということなのか、その辺はお分かりか。

【木南副課長】

- ・案内は全戸配布で皆さんご存知だと思うが、制度の関係があってどこでも行けるというものではない。区内に限定されてしまうので、柿崎まで送るということはできない。区内の駅までということになるので、そこから鉄道に乗るとか、バスに乗り換えるとかそういった利用になってくる。今まで親が家から学校まで送り迎えをしているとすれば、10月から変わるということは難しいのかなと思っている。これから2月、3月に、中学校や高校入学などスタイルが変わる方たちに伝わるようにしていきたいと思っている。

【江村委員】

- ・もしできるなら高校生へ直接配るというのも良いかなと思う。自分の場合もそうだが、全戸配布しても家の方が全員見ているわけではない。やはり利用者にダイレクトに、高校生にもっとわかりやすく、文書が少なめで工夫していただいて直接高校生に配る方が良いのかなと思ったのでお話ししてみた。

【木南副課長】

- ・中学生は学校を通じて配布することを考えている。高校生は高校生向けの SNS もあるので、考えてみたいと思う。

【江村委員】

- ・親も忙しく、子供も興味があれば見るが、できるだけチラシは分かりやすく理解できるものを作っていたらいいと思う。

【木南副課長】

- ・ご意見感謝する。

【山岸会長】

- ・他にないか。
- ・続いて協議事項に移る。最初に(1)自主的審議事項の各部会の取組について、各部長から報告をお願いします。では平山部会長から順次、中村委員、片桐委員の順で報告をお願いします。

【平山委員】

- ・若者分科会。今まで行った 2 つの取組についてまとめた資料をご覧いただきたい。一つは吉川中学校で今年の春に実施した吉川区に関する意識調査の結果。もう一つは吉川区に移住された方との懇談会の結果となっている。こちらは委員のメモをまとめたもので、移住された方の言葉を書き起こしたものではない。

【中村委員】

- ・地域づくり分科会では、特に活動はないが、本日の道の駅の視察研修は興味深い内容だった。また道の駅の活性化に向けた方向性も含めて、その一助になるように活動を再開したいと思う。

【片桐委員】

- ・交通弱者の関係で今ほどお話を聞いたとおり。吉川区では公共交通懇話会が開催されると聞いている。その結果を見ながら動きたいと思っている。

【山岸会長】

- ・3 部会長から報告いただいた。今後の進め方も含めて、皆さんから今の報告の質問、ご意見、ご提案を含めていただければと思う。いかがか。
- ・平山部会長、アンケート調査をまとめていただき、非常に見やすいし、子供たちの意見がつぶさに見て取れる。移住された方への聞き取りもされており、今後どうされるのか、全委員で進めるという認識でよろしいか。

【平山委員】

- ・部会だけではまとめきれないと思っている。今後の進め方について、協議会にかけていただいて方向性を決めていただきたいと思う。

【山岸会長】

- ・進め方として、今後全員で協議する中で、移住定住についてご意見をいただきたいと思う。
- ・他の部会に関しては、今後の動きを確認したので、もう少し時間が必要かと思う。いずれにしても、年度内に協議に行けるようになればと思っている。期待と希望を込めて願う。
- ・では今後、若者移住定住に関して、部会が行ってきたことと全体協議ということで、事務局と相談させていただくが、部会長、よろしいか。

【平山委員】

- ・よろしく願います。

【山岸会長】

- ・次に地域活性化の方向性について、まずは事務局から説明をお願いします。

【平原班長】

(資料 No. 3-1、3-2 を説明)

【山岸会長】

- ・今ほどの説明について、提出されていない3委員は早めに、確実に提出をお願いします。
- ・活性化の方向性ということだが、我々の権限として、提案事業が出せることになっている。提案事業はソフトとハードの両方がある。今市長から示されている(仮称)地域独自の予算はソフトだけであるので、我々地域協議会は市長に吉川区ではこういう元気が出る事業をつけてほしいと提案ができる組織であるので、是非そこに向けて、任期がもう1年度しかないこともあるので、取りまとめていきたいと思っている。3つの部会でそれぞれ頑張っていたが、その中の1つでも元気が出る事業、あるいは意見書という形で取りまとめていきたいと思っているのでよろしくをお願いします。
- ・皆さんも資料を見ていると思うが、これについて、ご意見ご質問があればお願いします。

(意見・質問はなかった)

- ・では次に入る。(2) 協議事項のその他、事務局何かあるか。

【風間所長】

- ・事務局報告でも報告させていただいたが、17日に行った道の駅よしかわ杜氏の郷活性化検討会について、前回の協議会でもお願いした、地域協議会の委員の中から2、3名の方を検討会の委員として選出をお願いしたい。

【山岸会長】

- ・それでは、委員の選出をしたいと思う。2、3名ということだが、私も立場上入りたいと思う。まず一人。他、お二人を皆さんから提案していただきたいと思う。前回の協議会で中村委員にお願いした気がするが、お願いできないか。

【中村委員】

- ・はい。

【山岸会長】

- ・もうお一方。皆さんの方から推薦はないか。

【片桐委員】

- ・1回目の会議は、会長の他に副会長2名が出席されていた。出席された副会長のどちらかお一人で合計3名ということでお願いしたいと思う。

【山岸会長】

- ・片桐委員からご意見をいただいた。私としては道の駅の地域活性化については地元の長峰、竹直の、つまり平山委員か高野委員のどちらかにお願いしたいと、私の私案ですがそう思っている。副会長どちらかということと、私の私案の2つの意見のどちらかと思うが、皆さんいかがか。

【高野委員】

- ・会長が言われることは分かるが、今日の道の駅の研修視察で（良寛の里わしまの）久住マネージャーが言われていたが、近くの人というより他の方から見た方がより分かる、つまり近くにいてもよく見えない。だから私としては長峰、竹直より、もう少し離れたところから見る方がよろしいかと思っている。

【山岸会長】

- ・そういうご意見も分かる。私は道の駅が活性化すると色々な事業が起きた時に隣接する町内に影響が出ると思っていて、前もってそれに加わっていただければという思いでお願いしている。

【片桐委員】

- ・私が山岸会長にお願いしたいと思っていることは、この前お話した、あの施設の遊休地には大きなハウスを建てられる広さがある。そして誰がそのハウスを受けるかという、長峰、竹直の生産組合の方が一番妥当だと思っている。その時に意見がいただける山岸会長にぜひお願いしたい。

【佐藤副会長】

- ・私は先回、仮というということで参加したが、その中に女性がいなかったのも、違う目線ということで女性委員の中からの選出をお願いしたいと思う。

【山岸会長】

- ・他、提案はあるか。
(他に提案はなかった。)
- ・3つの案が出たが、お二人の副会長のどちらか、道の駅に接する両町内の委員のどちら

らか、そして女性お二人のどちらか、この3つから決めたいと思う。

- ・最初の副会長のどちらかが良いと思う方挙手をお願いします。(2人挙手)

【江村委員】

- ・ちょっと待っていただきたい。多数決ではないと思う。何が必要で、こんな方が出席した方がよいのではという話し合いをしないでそれを決めてよいのかと思う。体が一つなので私も出られれば出たいという気持ちはあるが、色々なことを今回体験して推薦していかなければならないと感じている。まず出てみたいという意欲のある方がやるのが一番良いと思っている。誰がやるのがふさわしいかということより、やりたい人がやっていくのが筋かなと思っている。それが出なければこういうやり方もあると思う。

【山岸会長】

- ・了解した。いずれにしても、この3つのやり方の他に、今やりたい人がという提案。それを含めて、やってみたいという方の意思を最優先したいと思う。いかがか。
(意見はなかった。)

【風間所長】

- ・委員の選出は2、3名としているので、お二方でも結構。

【五十嵐委員】

- ・立候補ではない。私は隣接町内からの選出が良いのかと思う。高野委員がおっしゃられる遠くから見る視線も大事であるが、地元からということと、女性という提案もあり、それを合わせると、そう感じたところ。いずれにしても地元からの方がいた方が良いのかと思う。3人で選出するのであればということであるが。

【山岸会長】

- ・3人にしたいと思っているが、2人でも良いというご意見が多ければこれで終わりにする。それをまず聞かせてほしい。
- ・二人でよいか。
(「はい」という声あり)
- ・二人で良いという方、挙手をお願いします。
(挙手多数)
- ・多数の方が2人いればよいということになったので、私と中村委員と出席したいと思う。よろしいか。

(「はい」の声多数)

- ・他に事務局、何かあるか。

【平原班長】

- ・ありません。

【山岸会長】

- ・では、今日行ってきた研修視察の皆さんの感想と吉川としてはこんなところが、ということが出れば最高だが、今日は2名の方が研修に欠席であったが、報告を含めて発言をお願いしたい。
- ・中村委員、どうぞ。

【中村委員】

- ・今会長がおっしゃったが、何かレポートまでとは言わないが文書で提出していただいたらどうかと思う。

【山岸会長】

- ・そういうご意見だが、皆さんいかがか。

【中村委員】

- ・それで次の協議会までに提出で良いと思う。

【山岸委員】

- ・今、検討委員ということで決めていただいたので、次の検討委員会までにはほしいと思っている。それが次の地域協議会の先であればよいが、できれば今日、お話を聞かせていただければありがたいところ。どうしてもレポートの方がということになれば期間を設定して提出していただくこととする。

【風間所長】

- ・次回の活性化検討会の予定については、1月下旬頃に開催する予定である。

【山岸会長】

- ・ということであるので、レポートについて、後ほど次回の協議会の開催日を決めていただくなかで、その1週間前までに事務局に提出をお願いしたいと思う。
- ・それでは、5 総合事務所からの諸連絡について願います。

【風間所長】

- ・「株式会社よしかわ杜氏の郷」の株式譲渡に関する優先交渉先の選定について説明。

【山岸会長】

・質問、ご意見を願います。

【江村委員】

・言える範囲でよいが、源建設に決定したが、他の3社はどの地域のどのような会社だったのか。ある程度教えていただけるものか。

【風間所長】

・お話しすることはできない。

【江村委員】

・県外とか、市外とかもお教えいただけないか。

【風間所長】

・そこも同様。

【江村委員】

・了解した。

【山岸会長】

・他にいかがか。なければ、続きを願います。

【風間所長】

・(資料) 主要地方道大湊・高柳線・吉川区川谷地内の地すべりについて説明

【山岸会長】

・質問、ご意見を願います。よろしいか。

(質問、意見はなかった)

・では続きを願います。

【風間所長】

・(資料) 上越市エネルギー価格等高騰支援金について説明

【山岸会長】

・質問、ご意見を願います。よろしいか。

(質問、意見はなかった)

・では続きを願います。

【渡邊市民生活・福祉グループ長】

・(資料) マイナンバーカードの申請について説明

【山岸会長】

・質問、ご意見を願います。よろしいか。

(質問、意見はなかった)

- ・では続きをお願いします。

【平原班長】

- ・(資料) 上越市(吉川区)地域活動支援事業活動報告会の実施について説明

【山岸会長】

- ・質問、ご意見をお願いします。

【中村委員】

- ・仮に、今2月25日で計画しているが、その10日前には地域協議会がある。例えば、時間はともかく報告会をした後で協議会を行う、というのはいかがか。2日も夜、昼と出席するのは大変なこと。そうであれば、土曜日であったら午後1時30分から行うとか、降雪期でもあるので検討をお願いしたい。

【山岸会長】

- ・今ほどご提案いただいた。皆さんいかがか。支障はないか。日程は仮提案で10時からとなっているが、1日になっても構わないか。皆さんよく考えていただき、不都合があるようなら事務局へ連絡をお願いします。
- ・では次お願いします。

【平原班長】

- ・(資料) 令和5年上越市新年祝賀会の開催について説明
- ・(資料) 男女共同参画推進センター主催の自分磨き講座のお知らせについて説明

【山岸会長】

- ・今ほどの件について、質問等はあるか。よろしいか。

(質問、意見はなかった。)

- ・それでは、最後の6その他に入る。委員の方で発言がある方はいらっしゃるか。
- ・片桐委員。先日の市議会報告会のご報告をしていただけるか。

【片桐委員】

- ・先日市議会報告会へ出席した。吉川区として尾神周辺と道の駅の活性化、活力を出すにはどうしたらよいか発言をさせていただいた。議員の中には興味を持つ方もおられたので、今後その方と連絡を取ればありがたいなと思っている。

【山岸会長】

- ・それに関連するが、この間の4区の研修会で大潟区の会長からもお話ししていただ

いたが、市長を囲んで4区の地域協議会の会長副会長と懇談をさせていただいた。その時にも私から改めて吉川区の活性化は道の駅からなのだと、是非お力添えをお願いしたいということをし入れさせていただいた。どうなるかわからないが前向きに検討していただけるのかと思ってる。

・他、皆さんからないか。

(質問、意見はなかった。)

【平原班長】

- ・今年度の地域活動支援事業で採択された、天岩戸尾神伝説 PR 推進事業の一つである記念講演会に参加したので報告させていただく。
- ・11月13日、日曜日、午後4時からスカイトピア遊ランドで尾神周辺のPRDVDの披露と記念講演会が行われた。当日はあいにくの雨で予定されていた現地見学会は中止となったが、約80人が集まり、講師の上越古事記の会を主宰する影山忍さんを迎えて、日本最古の物語のロマンの楽しさと難しさなどのお話をお聞きした。昨年度の事業では紙芝居も完成しており、先日は新聞折込でPRチラシも入っていた。ますます注目されるのではないかと思っている。

【山岸会長】

- ・その関連であるが、ユーチューブでその日に流された尾神岳伝説のものが見ることでできるので、もし興味があればご覧いただきたい。

【片桐委員】

- ・今ほどの話の続きだが、私その日に体調がよくないなか帰ってきたが、帰るのに30分もかかった。そんな山の中。みなさん共通の問題として考えていただきたい。

【山岸会長】

- ・他にあるか。

(意見はなかった。)

- ・それでは次回の協議会の日程。通常第3週木曜日、12月15日となるがよろしいか。

(「はい」の声あり)

- ・では予定をお願いします。その1週間前、12月8日までには視察のレポートの提出をお願いします。それでは閉会の挨拶を薄波副会長をお願いします。

【薄波副会長】

- ・以上で第10回地域協議会を閉会する。

10 問合せ先

吉川区総合事務所 総務・地域振興グループ

Tel:025-548-2311 (内線 213)

E-mail:yoshikawa-ku@city.joetsu.lg.jp

11 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。